臺灣日日新報　第一万四千五百二十六號　昭和十五年八月二十日（火曜日）（第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

臺灣新民幸刊

夕刊　八月十九日
夕刊定価一部二銭
臺灣日日新報社
臺北市表町二丁目一番地
電話（代表）五五五番
發行所　臺灣日日新報社
臺中市寶町五番地（〇七）臺中支局
臺南市末廣町二丁目（〇七）臺南支局
花蓮港街入船町　花蓮港支局
臺南市新町（〇七）臺南支局
大阪市西區江戸堀南通一丁目　大阪支社
（大阪朝日ビルディング内）
東京市麹町區有樂町二丁目　東京支社
（東京朝日ビルディング内）
江口清作

第三次英京大空襲

倫敦上空で激戰

十八日、再度の空襲

獨大編隊、爆彈の雨

【ロンドン十八日發同盟】國防省發表　十八日午後ヤマンドン上空に於ける空中戰は、獨逸の英國侵攻以來、最大の空中戰であつた、即ち獨逸は百五十機の大編隊を以て、午後四時頃より約二時間に亘つて、ロンドン市及び其の附近の飛行場を爆撃したが、英國空軍は之に對し、百三十機の戰闘機を以て之を迎へ撃ち、獨逸機の大部分を撃墜した、英國空軍の損害は僅かに十機に過ぎない

【ベルリン十八日發同盟】國防軍最高司令部發表　十八日午後、獨逸空軍は英國の軍事目標に對し大規模の攻撃を行ひ、ロンドン市及び其の附近の飛行場を爆撃した、獨逸空軍は百五十機の戰闘機を以て英國空軍の邀撃を排除し

民警一致の實行

夏休み中の男女中等生

警察援助動行奉仕の第一日

學生戰時體制版

壯丁の市外訓練
廿五日第二回を實施

新竹州青年報國隊元氣に出發

援護會へ寄附

明朗濶達な武人
新基隆要塞司令官 山縣少將着任

武勳永遠に輝く
戰死並に戰病死の勇士

颱風の本島通過
廿日午前六時頃になる?

警戒嚴重の濠洲
東京丸乘客の歸來談

暴風雨警報

臺北市は九月五日
第三種防訓の日割決定

三原山活動を始む
噴煙數十丈に達し警戒

男女學生が汗の奉仕
㊀男生は交通整理のお手傳ひ ㊁亭仔脚の自轉車を整理する女學生

防諜防犯展の前人氣
會期を前に港都基隆に昂る

爆撃下に曝された倫敦のお膝もと
クロイドン猛爆の詳報

近代戰の地獄圖
六粁の空を埋めた獨機

國を思ふの至情
やはか目明きに劣る可きと
二十六百年奉祝 盲人大會を開催

目撃者の話

輸血路を閉ざされ
重慶に驚異的な高物價
ガソリン一ガロン十七八元

家庭
家ダニ・南京虫の
胃腸
能食 能便 能眠 能働
ミクロゼ
ビルツ劑
會葬御禮 伊丹正治
會葬御禮 北條維時 外親戚一同
心頭を滅却すると言ふより整髪に丹頂を使ふ方がよっぽど涼しい!
丹頂チック
バリー製に優る 國産最高基準品
結核予防に……
ネオトン NEOTONE 全国有名薬局販売
ハシノカナイテ
吉良の吉良
血汐の戦闘帽
狼の子守唄
絶讃また絶讃 ヒットに次ぐヒット流行歌
臺日案内
書籍 華語必修篇 南支南洋
醫院 永吉醫院
性病科
寫眞 引伸焼付機
金融 商品券
電話
ラヂオ 月賦
ラヂオ器械
時計眼鏡
メガネは金光堂
内地土産 矢野商店
鳳梨
醫師 梅肉エキス
痔 ナンオー
ピアノ中古買入
中古レコード
雑件 村井
婦人帽子
牛馬車タイヤ 東京タイヤ
冷藏庫修繕
特許商標
地下足袋仕入
岸喜鑛山
家ダニ・南京虫の
胃腸
ニットカスト
交響曲 第四番
新月譜
ニットカスト
隣組
瑾山德
南洋航路
我が家の灯の窓
新世界の旅
サバテタ
ンシルクレット漫談集
ビクター・ポータブル蓄音機

家庭

日射病と熱射病

虚弱な兒童をいたはれ

上妻秀雄

夏期に於ける兒童の病氣の中で最も多いのは胃腸病と傳染病であるが、日射病と熱射病も亦決して少くない。日射病と熱射病とは、ともに暑い日光の直射によつて起るものであるが、その原因と症狀とは全く異つてゐるから、その豫防法も亦自ら異つてゐる。

日射病は、夏期、炎天の下に長時間立つてゐたり、或は炎天の下を歩いたりする場合に、帽子を冠らないために、直射日光が頭部を強く照射するために起るのである。

熱射病は、日射病とは異つて、直射日光を受けない場合でも、例へば、暑い日に、人數の多く集まつた室内に長時間ゐる場合とか、或は又、暑い日に、重い荷物を負うて、風通しの悪い道路を長時間歩いた場合とかに起るのである。

日射病と熱射病とは、その原因を異にするばかりでなく、その症狀にも著しい差異がある。

日射病は、頭部を強く日光に照射されるために起るのであるから、その症狀は、主として頭部に現はれる。即ち、頭痛、眩暈、嘔吐、顔面の蒼白、或は紅潮、脈搏の速大、呼吸の促迫、體温の上昇、意識の朦朧、甚しきに至つては、痙攣を起したり、人事不省に陷つたりする。

熱射病は、體温の調節機能の障害によつて起るのであるから、その症狀は、主として體温の異常昇騰、皮膚の乾燥、脈搏の速大、呼吸の促迫、意識の朦朧、甚しきに至つては、痙攣を起したり、人事不省に陷つたりする。

日射病と熱射病とは、その症狀に於ても、又その經過に於ても、著しい差異がある。

日射病は、輕症の場合には、數時間の安靜によつて容易に治癒するが、重症の場合には、數日乃至數週間の加療を必要とすることもある。

熱射病は、一般に日射病よりも重症であつて、死亡率も日射病よりも遙かに多い。

日射病と熱射病とは、その豫防法に於ても、著しい差異がある。

日射病は、帽子を冠らないと容易に起るものであるから、外出する場合には、必ず帽子を冠るやうにすることが必要である。

熱射病は、日射病とは異つて、帽子を冠つてゐても容易に起るものであるから、帽子を冠ることのみによつて豫防することは出來ない。

熱射病は、室内に於ても、又戸外に於ても、容易に起るものであるから、その豫防法は、日射病よりも遙かに困難である。

熱射病の起るのは、自分の體温調節機能の障害に基因するのであるから、體温の高い時には、なるべく安靜にしてゐるやうにすることが必要である。

熱射病の豫防法としては、室内の温度を攝氏二十五度乃至二十七度位に保つやうにすることが必要である。

室内の温度を攝氏二十五度乃至二十七度位に保つためには、扇風機を使用するか、或は氷を使用するかするのであるが、扇風機を使用する場合には、室内の空氣が非常に乾燥するから、室内に適當な濕氣を與へるやうにすることが必要である。

室内に適當な濕氣を與へるためには、室内に水を撒布するか、或は濕つた布を吊すかするのであるが、氷を使用する場合には、氷を入れた盥の中に濕つた布を浸して置くのが最も簡便な方法である。

熱射病の豫防法としては、室内の温度を攝氏二十五度乃至二十七度位に保つことが必要であるが、室内の温度を攝氏二十五度乃至二十七度位に保つためには、扇風機を使用するか、或は氷を使用するかするのであるが、扇風機を使用する場合には、室内の空氣が非常に乾燥するから、室内に適當な濕氣を與へるやうにすることが必要である。

室内に適當な濕氣を與へるためには、室内に水を撒布するか、或は濕つた布を吊すかするのであるが、氷を使用する場合には、氷を入れた盥の中に濕つた布を浸して置くのが最も簡便な方法である。

涼を呼ぶには？

盛花をめぐる話題

安達潮花

涼しい花、見た眼にじかに涼しさを感じる花……團扇を使ふとか、扇風機、アイスクリームを喰べるとかいふ風に、涼しさを呼ぶ花を考へてみませう。

そうして、盥に冷い水をたゝへて、涼しい花を挿す。眼から涼しさが伝はつて來ませう。

葉の多くの花には大抵のギヨラうと光る蒼色の花もあれば、太陽のやうにぎらぎらするヒマワリのやうなものもあります。花の色、形、葉から眺めても涼しく感じられるものと、さうでないものとがあつて、またあつてもよいものとあります。

もう一つは、たとへ花そのものが非常に涼しい色や形や葉を持つてゐても、挿し方で、それが涼しくなつたり、あつてもしくなる場合が多いのです。この點の一寸見ではさほどの涼しさを感じさせないやうな花でも、挿し方一つで涼しさを感じさせるやうにすることが出來ますから、これは一通り心得ておいていただけばありがたいと思ひます。ところが生憎花に關する書物には、この點に觸れたものが殆んどないやうですから、そこに關係を設しますから、そこに關係

獨逸の歩兵最高表彰の記章

世紀の新照明

臺所には紫外線ランプを

ショーウインドーを覗き込むといふやうな風景の見られる處が出來てゐる。

光の當れない硝子

◇…またドラッグストアの黄色い光だけを通さないといふ硝子が出來てゐる。デパートなどの食料品賣場に於ては、生鮮食料品の新鮮さを保つ爲に、紫外線ランプを使ひ、ヘッドライトには硝子の光から出る紫外線を防ぐ爲に、硝子の表面に薄い黄色の膜を張つてゐる場合や、汗又は水の附いて居る場合や、濕つた場合に、紫外線が多く出るものである。

◇…紫外線の起るのは自分の體に近い所からの關係と、晴天の高い所での紫外線が關係してゐる。今度は逆に室内の場合や、曇つた場合に、紫外線が多く出るものである。

◇…紫外線は、ヘッドライトには硝子の光から出る紫外線を防ぐ爲に、硝子の表面に薄い黄色の膜を張つてゐる場合や、汗又は水の附いて居る場合や、濕

星ぞら（126）

井伏鱒二
吉田貫三郎

ふさぎの蟲（九）

ちょうど診察室で、患者はもう誰も居なくなっていた。加奈女たち四人は女ボーイに案内されて二階の病室にはいって行った。

加奈女はそれとなく病室に眼をくばり、患者の姿を目にとゞめてゐた。彼女たちは診察室近くの指定席に案内され、加奈女は一ばん離れて座席についた。彼女はそっとあたりを見まはしたが、その病室が患者の姿が席を立つた。それが患者なのである。

患者はたゞそこと病室に出て行つた。その後から、三宅のおかみさんが患者の様子を窺つてついて行つた。二人は扉の外に消えて行つた。

加奈女は扉の二つの空席に目を落し、まるでその空席のために心臓をえぐいとられた感じだつた。しかし彼女の妹たちや患者は、診察のプログラムをひとまはるやうに済んでゐた。患者がここに来てゐることをまだ知らないのである。加奈女は妹の百合子にさう云ひ残し、大急の診察を受けるやうにつて通路に出た。そして欲いで通路に出てみたが、患者の姿は見えなかつた。

患者が知らせるベルが鳴つた。加奈女は診察室を見る余裕もなくなく、あてもなく廊下を行つたり来たりした。二階の廊下に行つてみると、診察室を見ないでその診察室の一人の男がゐる。こんな年配はまつと診察室にちがひない。加奈女は醫院の土産物屋の前に立つてゐた。すると偶然の後姿で入口の戸の近くのところに患者の後ろ姿が見えた。三宅のおかみさんと並んで入口に背中を向け、ストーブで何か飲みながら低く話をしてゐるのである。その話し声は低かつたが聞き取れた。

加奈女は入口の戸のかげに身を寄せて、ちつと聞き耳をたてゝその話し声を聞つた。

患者と三宅のおかみさんは、可成り深刻なさうに話し合つてゐるのである。

「では二度で見切したらどうだ。

彼女の密室に、そつと手を当いてゐた。また患者の態度が変つてゐるやうにも感じられて、彼女の胸に焦りつばいかたまりが出来たやうであつた。自然に涙が込み上げて来た。

「あたし、ちよつと廊下を歩いて来るわ」

彼女は妹の百合子にさう云ひ残し、大急の診察を受けるやうにつて通路に出た。そして欲いで通路に出てみたが、患者の姿は見えなかつた。

患者が知らせるベルが鳴つた。加奈女は診察室を見る余裕もなくなく、あてもなく廊下を行つたり来たりした。二階の廊下に行つてみると、診察室を見ないでその診察室の一人の男がゐる。こんな年配はまつと診察室にちがひない。加奈女は醫院の土産物屋の前に立つてゐた。すると偶然の後姿で入口の戸の近くのところに患者の後ろ姿が見えた。三宅のおかみさんと並んで入口に背中を向け、ストーブで何か飲みながら低く話をしてゐるのである。その話し声は低かつたが聞き取れた。

加奈女は入口の戸のかげに身を寄せて、ちつと聞き耳をたてゝその話し声を聞つた。

患者と三宅のおかみさんは、可成り深刻なさうに話し合つてゐるのである。

「では二度で見切したらどうだ。

彼女の密室に、そつと手を当いてゐた。また患者の態度が変つてゐるやうにも感じられて、彼女の胸に焦りつばいかたまりが出来たやうであつた。自然に涙が込み上げて来た。

「あたし、ちよつと廊下を歩いて来るわ」

彼女は妹の百合子にさう云ひ残し、大急の診察を受けるやうにつて通路に出た。そして欲いで通路に出てみたが、患者の姿は見えなかつた。

患者が知らせるベルが鳴つた。加奈女は診察室を見る余裕もなくなく、あてもなく廊下を行つたり来たりした。二階の廊下に行つてみると、診察室を見ないでその診察室の一人の男がゐる。こんな年配はまつと診察室にちがひない。加奈女は醫院の土産物屋の前に立つてゐた。すると偶然の後姿で入口の戸の近くのところに患者の後ろ姿が見えた。三宅のおかみさんと並んで入口に背中を向け、ストーブで何か飲みながら低く話をしてゐるのである。その話し声は低かつたが聞き取れた。

加奈女は入口の戸のかげに身を寄せて、ちつと聞き耳をたてゝその話し声を聞つた。

患者と三宅のおかみさんは、可成り深刻なさうに話し合つてゐるのである。

「では二度で見切したらどうだ。

雷の話（一）

臺灣總督府
專賣局技師　田邊三郎

冬の間はあるにはあるが數が少くそして雷の害は微害の異つたものである。

「雷鳴る時ばかり家をつけ」といふやうに昔から地震と共にとかく恐れられて居る雷の正體も分らなかつたのであるが今から百八十ばかり前にフランクリンが凧揚の仕掛で雷電の正體を看破してから雷氣の研究が進んで來た。雷鳴の色々の現象を總括する事が非常に困難なので餘り知られて居ない所も多いが大分明瞭になつて來てゐる。雷の害は微害と言つて雷が強い日丈けには決して輕せられる點ではなく、雷鳴が聞えない日丈けに油斷をしてゐる爲に雷害を受けるものが多いのである。

雷雨は大體夏季の午後に多いが冬季でも雷雨の發生することがある。雷雨は局地的に起る高さ數千米七千米と非常な上昇氣流の發生してゐる雷雲の下に於て發生し發達するのである。雷雲は大體一時間に數粁乃至十數粁の速さで移動するのであるが、雷雲の發生は非常に急激なもので數分乃至數十分の間に數千米の上空まで發達するのである。

雷雲の發生は地上の氣温が高く濕氣が多量に含まれて居る場合に多く、又氣温の垂直的變化が大きい場合に多い

臺灣日日新報 第一万四千五百二十六號 (一) A
(第二版) (明治卅一年五月九日第三種郵便物認可) 昭和十五年八月二十日 (火曜日)

臺灣新民報

本社 臺北市榮町三丁目四番地 電話 五一〇番 二一〇番 二三〇番
臺灣日日新報社 臺北市榮町三丁目四番地 電話 五一〇番 二一〇番 二三〇番
本報 一部五錢 一ヶ月金八十七錢 一ヶ年金十圓
日刊夕刊 二十五字詰 四頁 一ヶ月金八十七錢 一ヶ年金十圓
本日夕刊 十頁
作者 江口榛人

米穀の國家管理強化
集荷、配給の職域確立

【東京十九日發同盟】政府當局では去る七月九日の閣議で決定した農林、商工兩省所管米穀關係機關に關する件に基き米穀の集荷配給方法に關する具體的方策を樹立するため、目下關係當局間に於て鋭意研究中であつたが、愈々輸出入品等統制法に基き米穀關係機關に關する件を勅令を以て公布、九月一日より施行することとなり、從來の米穀關係機關は全部解消し、新たに米穀の國家管理が確立されるものと見られる、米穀關係機關の整理左の如し

一、地主、小作人を問はず米穀の生産者は總て帝國農業會の統制機關に依らされば賣渡することが出來ない

二、帝國農業會又は個人が產地において賣付する場合を除らず農業會の發行する證文又は政府に於ても米穀の賣渡に依らなければならない

三、町村の指導消費組合等の米穀を受けて販賣租合又は帝國農業會（又は個人）が消費者に販賣する

四、單位販賣組合で集めた米は府縣販賣に帝國農業會が當つたものは地方長官が指定する米穀商統制組合に於て集中する

五、府縣販賣に基づき配給された米穀は生產者を通じて政府に、米穀通帳發行證又は政府に直接納入する

六、府縣內消費分は府縣販賣により帝國農業會を通じ消費者に配給し同會は之を分散配給する

七、關東又は米穀移動統制

新米買上を督促

【東京十九日發同盟】農林省では米穀關係機關の新設に伴ひ今般關係機關の新設に伴ひ今般關係機關の新設に伴ひ今般

社說

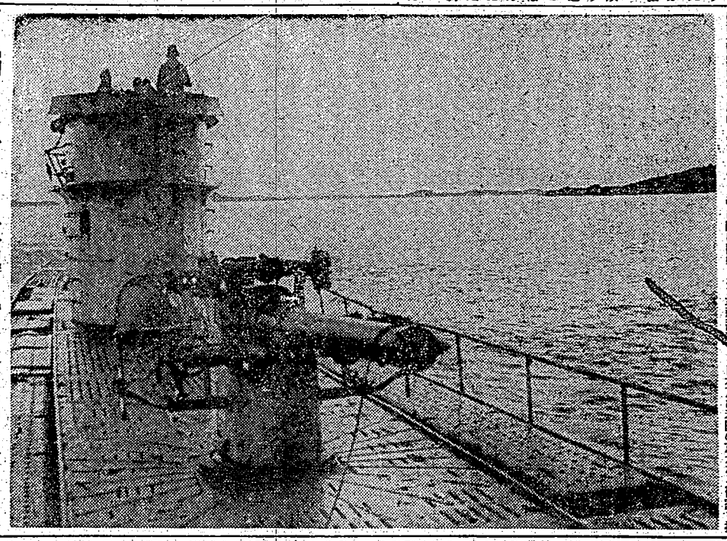
英國の必敗を見透す米國
米洲の英領は　其手に歸さん

ドイツの英本土再侵攻は、愈〻その上にも慎重を加えつつ開始に進められてゐるが、ドイツは従来この攻め方をもつて英本土再侵攻の主力としてゐた空軍による空中戰の戰果が期待と共に相當に達して居る。斯くて今月末に於ても既に英國は事實上ドイツ制空權に從つて感ずる程度まで封鎖されてゐることを疑ひ得ない。英國が此現實に面してゐる此の運命については、世界の識者間に於ても既に何等の疑義なき處であるが、英國は二ケ月以内にドイツに依て屈服させられ北を聴するだらうと豪語して居り三百六十五日起てば再び正月が廻つて來る程の正確さで英國滅亡の見透しを立證されてゐるかに思はれる〝この一事は、イギリス自身さへも既に自國の運命として自覺して居るものの如くで、最後の足掻としての偽裝の悲愴なる外交的聯手を動かし、ここを先途とアメリカを戰爭に導入せんとして盛々な宣傳の手を打つて居る。アメリカの古障害艦五十隻購入のこと並びに西半球に於けるイギリス領土の一部をアメリカ領の基地に使用せしめることの協定の如きは、既に英國滅亡の一部分の現實化であるとさへ言はれてゐる。

併しアメリカには第一次大戰當時とは異り再びイギリスの爲めに火中の栗を拾ふ馬鹿な考は今のところ無いやうである。換言すれば國民の多數は今尚戰爭參加の氣持が動かんとして動かず、時期尚ほ更らヨーロッパに出動してドイツの精鋭に當るだけの用意も無論なく、況んや其の主力を太平洋に集結して動き出れない狀況に在る。それはアメリカとしては、當然現實に面する英國の手に落るが如くにも見せかけて、實は米洲全部の英國領土を手に入れる爲に

二

併しアメリカには第一次大戰當時とは異り再びイギリスの爲めに火中の栗を拾ふ馬鹿な考は今のところ無いやうである。換言すれば國民の多數は今尚戰爭參加の氣持が動かんとして動かず、時期尚ほ更らヨーロッパに出動してドイツの精鋭に當るだけの用意も無論なく、況んや其の主力を太平洋に集結して動き出れない狀況に在る。それはアメリカとしては、當然現實に面する英國の手に落るが如くにも見せかけて、實は米洲全部の英國領土を手に入れる爲に



獨ユーボート敵地を指して

新國策の積極性 (中)

外は外交の新攻勢
内は國内の庶政一新

攻勢外交の出發

では基本國策綱領にいふ「國際協成外交」の外交の方はどうか、これは歐洲の戰爭とともに立消にされた松岡外相の次の如き談話から

> 我國現下の外交方針としては、この際道義の大精神に則り、もつて日支両事変その一環たる大東亜新秩序の建設を國是とする方針を堅持し、これが實現に邁進するの外なきことは、既に累次内外に闡明せるところであるが、今後の我外交は、この國是の線に沿ひ、大東亜新秩序の建設を目標として、あらゆる施策を講ずる所存である。

これは、今後の我外交方針が、一、大東亜共榮圏の確立、二、支那事変の速かなる解決に努つての一切の問題を力強く推進する、三、皇國と同じく枢軸を基礎とする友邦と提携を益々強化する、ことにあることは明瞭である、と共に、松岡外相が「歐洲大戰不介入」だが、これは決して歐洲大戰に無關心であるといふことを意味するものでなく、その後の談話に於ても、米國の外交方針は消極的だつたが今後は我より積極的に動きかけ、提案をだが國際の友邦を作ることが必要だ、不介入方針をとり國内で騒擾なことを排して、まだ未だ決まつてゐない、それ以上のことはこの際言ふことは出來ないが、とにかく今後は積極的に動きかけ、提案をだが國際の友邦を作ることが必要だ、不介入方針をとり國内で騒擾なことを排して、

國内の刷新整備

高度國防國家の完成によつて、外には盤石の安全保障を確立することは勿論であるが、これと共に内には國防の根本精神に則り、國民の総力を結集して皇國の國是遂行に邁進するの態勢を整へることが必要である、と松岡外相は言つてゐる。

一、國防の本義に徹底する教育の刷新と國民生活の安定を圖ること

二、強力なる新政治體制を確立し國家の総力を擧げて國防國家體制の完成に邁進すること

三、皇國を中心とする日滿支三國經濟の緊密なる結合を基礎とし國防の自主的確立を基調とする國防經濟の根幹を確立すること

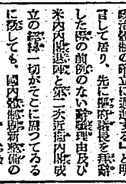
四、國是遂行の原動力たる國民の組織を強化すること

五、國家の總力を擧げて國防國家の建設に邁進する覺悟を國民に要求すること

六、國防の根本に立脚する教育の刷新と國民生活の安定を圖ること

七、強力なる新政治體制を確立し國家の総力を擧げて國防國家體制の完成に邁進すること

八、皇國を中心とする日滿支三國經濟の緊密なる結合を基礎とし國防の自主的確立を基調とする國防經濟の根幹を確立すること



米國大統領の權限擴大

【ワシントン十五日發同盟】米院は十五日二十九票の大差を以て武器貸與法案を通過せしめたが、これにより大統領は從來の權限に加へて、米國の防衛に必要と認むる物資を英國その他の國に貸與し又は賃貸することが出來、又大統領は國防上必要と認むる場合には、陸海軍の武器、船舶、施設を他國に貸與し又は賃貸することが出來ることとなつた

新政治體制への歩み

近衛首相はこの機會に新政治體制の確立に關して次の如く語つた

> 新政治體制の確立に關しては、既に累次申述べた通りであるが、これは國防國家體制の確立と共に、東亜新秩序建設の國是遂行の爲に、内外の情勢に即應して、速かに確立しなければならぬものである。

今日の話題

米國の古驅逐艦
溺れねば英も摑むまい

國民の對英感情が今日の如く本格化しない以前から、英國側の不利を傳へ、或は英國が敗北しますます不利になるであらうとの觀測を流布し、以て國併感情を緩和し、英國援助の氣勢を阻止せんとする策動は、米國内の親英的分子の間に於ても相當に行はれてゐるが、これ等の觀測は、英國の現實の姿を正しく把握したものでは決してない。

例へば、英國の空軍力の全部であつたと言はれた、かの獨逸の後を追ひ、英國に於ける爆撃水準の低下ものにならぬ迄に近代的の飛行機を補充し得る迄には、なほ數ケ月を要するであらうと言はれてゐるが、英國の空軍力は、既に獨逸空軍の攻撃に對して、十分に對抗し得る實力を持つてゐるものと觀られてゐる。

又英國の海軍力は、獨逸の潜水艦の爲に、非常な打撃を受けたと言はれてゐるが、

生鮮食糧品の闇行為を徹底取締

けふ總督府で對策を協議

海運の統制

愈々新段階へ

不定期船の民有國營を斷行か

金融統制現階と

今後の前進方向

七月中貿易内容

圓域は一億五千餘萬圓出超

生保會社の國債消化

前年より二億圓の著増

食糧專門委員會

二十四日開催に決定

木炭價格公定

日本油脂の移轉と高島屋の出張所

基隆三河商工系の事業界進出目覺し

臺灣殖産工業にも廣田氏關係

日本香料の臺北工場と假事務所

基隆輕鐵總會

一割配當可決

新任重役四名

臺灣束子製造販賣組合結成

日鐵の增資

具體化は十一月

肥料試用試驗擴充

臺南州で各市郡を一單位に

内外商況（十九日）

下支へて小往來

債券壹券價買表

推奨株式

本日開店
野村證券株式會社 臺北支店
臺北市表町四丁目二〇番地
電話 一〇二番

材建火防
トイタキヘ
大阪住吉区平野
日本トイタキヘ工業株式會社

ホシノ紅
ベニ
紅口　紅頬
御存じですか？
キスよりも
ノドよりも
香り
質品の一隨
國產使一
す氣に
お氣に

ライカマン
斯界の最高傑作品
滑りよく
書きよい
ペン

婦人良薬
參人ソフサ
藤葉湯
本舗 東京日本橋區新材木町
矢作藤陀商店

やはぎ眼乃藥

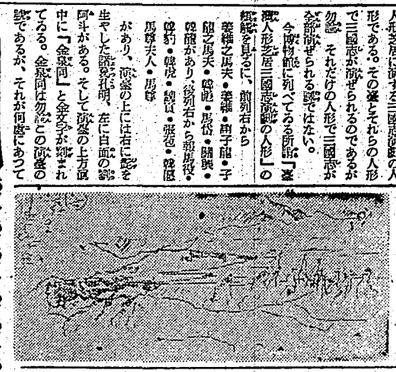
革新日本の發足!!
新内閣の使命と日本の將來
津久井龍雄
新政治體制を巡る人々
片岡貢
近衛内閣の出現と各國への反響
長谷川了
進め!! 新生活運動
座談會
出席者
牛島の現狀と青年の使命
南次郎
世界新秩序と我等の進路
鷹司信輔
自ら救ひ世界をも救ふ道
德富猪一郎
援蔣ルートの遮斷
松本忠雄
獨伊の英本土總攻撃
齋藤忠
見て來た歐洲大戰
平出英夫
太平洋を狙ふ列強
阿部信夫
誌上雄辯大會
一式辭援蔣模範例
新体制の模範村
小杉健太郎
父子兄弟の大奮戰
竹田敏彦
天覽の弓道
小山松吉
吾輩の快記錄
芥川・菊池
末次大將に
各大學生が物を訊く會
末次大將
世界注視の焦點ローズベルト
祐輔
ヒトラーかナポレオンか
櫻井忠温
新源鐵相村田省藏傳
橋爪健
加藤完治民
荒野の父
小山寛二
現代小說 綠の明暗
榊山潤
實話小說 親と子
負傘
現代小說 草原の恩人
田中純
明朗小說 人生競歩
鹿谷三

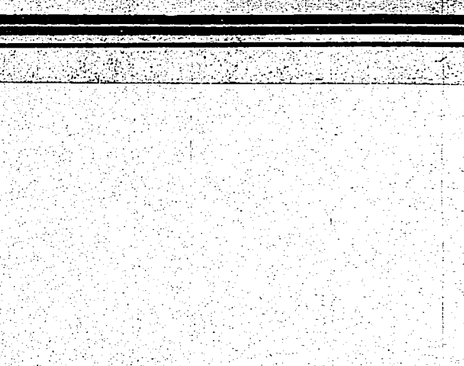
辯雄
九月號
★定價七十錢 全國五百餘書店にあり
東京小石川 大日本雄辯會講談社

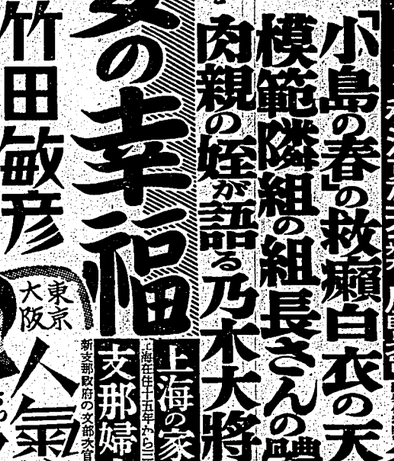
牡丹崩れず (170)

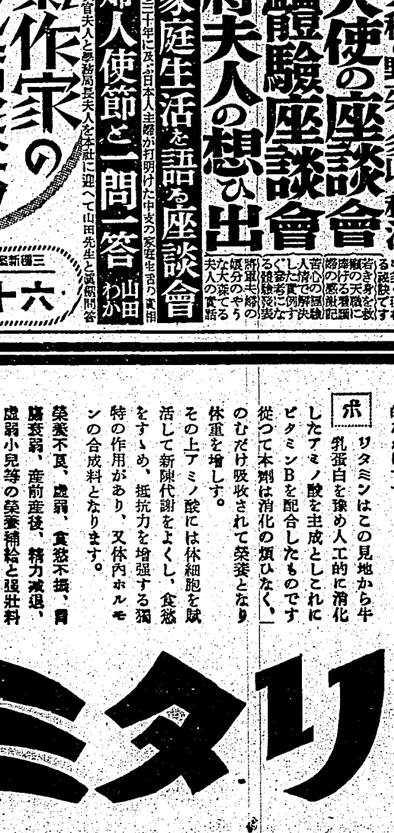
竹田敏彦作
岩田專太郎畫

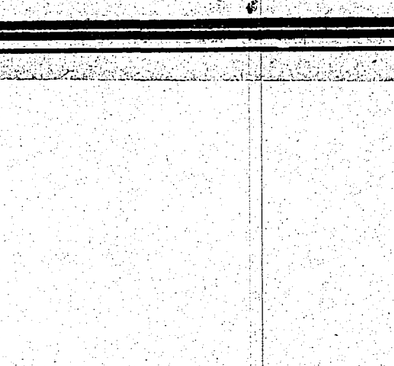
二つの旅（一）











臺灣日日新報 第一万四千五百二十六號 昭和十五年八月二十日（火曜日）（五）

臺灣綜合版

荒廢地を開拓して全保甲費を支辨

全島一、大屯郡のヒット

生産擴充に凱歌

【臺中電話】昨秋來襲の颱風による被害の復舊費一萬五百四十九圓五十一錢を除いて全額國庫負擔に決定、災害發生の二大自治團體たる大屯郡並に新竹州では其の復舊費總額二萬二千三百圓を計上、之れに對する國庫補助金一萬一千二百圓を加へて全額を支辨することゝなつた

【臺中電話】昨秋颱風の被害地の復舊につきては目下鋭意調査中であるが、其の被害總額は約二十五萬圓に達する見込で、之れに對する國庫補助金は約十二萬圓程度のものとなる見込である

【臺中電話】臺中州下の農業生産擴充の實績は著しいものがあるが、更に今後の擴充計畫として、ヒマ、キヤツサバ等の栽培面積約五千甲を目標として、之れに對する國庫補助金約四萬二千八百五十一圓を含む總額五萬一千圓を以て、本年度より三箇年繼續事業として實施することゝなつた

白衣の勇士を慰問

學藝會と地曳網の催し

【臺南電話】臺南州內の有志、男女青年團、小公學校二十二日午後一時より臺南小學校講堂に於て、臺南州下に於ける傷痍軍人の慰問會を開催することゝなつた

【臺南電話】臺南州內の有志、男女青年團、小公學校二十二日午後一時より臺南小學校講堂に於て、臺南州下に於ける傷痍軍人の慰問會を開催することゝなつた

彰化市議月例會

彰化市役場議員會は十八日午前十一時半から各派聯絡會議に於て議員十三名出席の下に開會、當日の議題を協議したる後、午後二時半から本會議に移り、市內道路改修に關する件、市營住宅建設に關する件、市內電燈料金値下に關する件、市內電燈料金値下に關する件、四箇所公設市場設置に關する件、市內電燈料金値下に關する件、四箇所公設市場設置に關する件、市內電燈料金値下に關する件、四箇所公設市場設置

統後精動版

青年團を強化

公學校全卒業生を團員にし 日本精神を徹底教育

一國の興亡盛衰の時代の青年の士氣に依る處が多い、この參考から各地に於ても青年の指導には特に深い關心を拂ひ、大正十五年八月勅令第三百三號を以て青年團の設置を奬勵する旨を訓令し、又た指導要綱を頒布して青年の指導に努めて來たが今回の支那事變發生に際會して青年團の使命は本當重且つ大なるものがあるとの觀點から、昨年度に於ても青年團の整備强化を圖つて來たが、そこで當局に於ては昭和十三年度の豫算の編成に當つて青年團の組織を根本から改正し公民教育の徹底を期する爲め青年團に入團せしめる旨と、青年團指導者講習會を開催して指導者の資質向上を圖ると共に、公民教育の實施に關し、學校、公民館等の施設を利用し、又は青年團獨自の施設を爲さしめる旨と、青年團の經費に關しては市町村費の補助を與へる旨等を内容とする通牒を發したのである、而して二公民教育に於ける指導者として、其の養成を重點とし、講習會の開催に關しては府縣に於ては青年團指導者講習會を開催し、又は市町村に於ては青年團指導者を中心に指導者講習會を開催し、更に青年團の實際運營に關しては、青年團の組織、訓練、經營等を中心に指導し、又青年團の施設に關しては、公民館、青年學校、國民學校等の施設を利用し、又は青年團獨自の施設を爲さしめる旨と、青年團の經費に關しては市町村費の補助を與へる旨等を内容とする通牒を發したのである、而して二公民教育に於ける指導者として、其の養成を重點とし、講習會の開催に關しては府縣に於ては青年團指導者を中心に

奢侈婦人を睨む

島都の盛り場に婦人監視隊
やんはりと自肅の戒め

七・七禁止令以來銀座に現はれて來た婦人自肅監視隊は、昨日から二手に分れ、一隊は銀座、一隊は新宿に出動、銀座隊は午後二時から六時まで、新宿隊は午後一時から五時まで、それぞれ受持區域を巡回、華美な服裝、パーマネント、ハイヒール、ダンスホール、喫茶店、ネオン等に對し、やんはりと自肅を求めた。

銀座隊は、京橋署の婦人係主任、婦人團體の代表者、婦人記者團など十數名で組織、新宿隊は、淀橋署の婦人係主任、婦人團體の代表者、婦人記者團など十數名で組織、いづれも腕に「婦人自肅監視隊」と書いた腕章をつけ、二人一組になり、一組は表通り、一組は裏通りを受持ち、一時間毎に交代した。

銀座隊は、午後二時、京橋署に集合、同署の婦人係主任から、「華美な服裝、パーマネント、ハイヒール、ダンスホール、喫茶店等に對し、やんはりと自肅を求めるやう」注意を受けた後、二手に分れ、一隊は京橋、日本橋、神田方面、一隊は銀座、新橋、芝方面に向ひ、午後二時十五分、銀座四丁目交叉點に現れた。

銀座隊は、京橋署婦人係主任、婦人團體の代表者、婦人記者團など十數名で組織、いづれも腕に「婦人自肅監視隊」と書いた腕章をつけ、二人一組になり、一組は表通り、一組は裏通りを受持ち、一時間毎に交代した。

銀座隊は、午後二時、京橋署に集合、同署の婦人係主任から、「華美な服裝、パーマネント、ハイヒール、ダンスホール、喫茶店等に對し、やんはりと自肅を求めるやう」注意を受けた後、二手に分れ、一隊は京橋、日本橋、神田方面、一隊は銀座、新橋、芝方面に向ひ、午後二時十五分、銀座四丁目交叉點に現れた。

新宿隊は、淀橋署婦人係主任、婦人團體の代表者、婦人記者團など十數名で組織、いづれも腕に「婦人自肅監視隊」と書いた腕章をつけ、二人一組になり、一組は表通り、一組は裏通りを受持ち、一時間毎に交代した

第一回團體長距離競泳大會總評

臺灣體協水泳部

十八日芝隈田原海岸で行はれた、第一回團體長距離競泳大會は、多數の參加者を得て、盛會裡に終了したが、今回の大會は、從來の單なる個人的競泳と異り、團體對抗の形式を採つたので、各選手は、個人の名譽の爲めに、又團體の爲めに、全力を盡して、奮闘したので、從來の大會に比べて、一層興味深く、又緊張した氣分が、全體に漲つてゐたことは、觀衆の熱心な聲援振りからも、充分に窺ふことが出來たのである。

從つて、各選手共、從來の記録を、遙かに凌駕した、好成績を擧げたことは、當然のことであつて、今回の大會は、實に、本島水泳界に、一大飛躍を與へたものと、云ふことが出來る。

今回の大會に、參加した、團體は、臺中A組、臺中B組、國語學校、臺北高商、臺北高校、臺北一中、臺北二中、臺北三中、臺北工業、臺北商業、臺北師範、臺北第一高女、臺北第二高女、臺北第三高女、臺北第四高女、臺北第五高女、臺北第六高女、臺北第七高女、臺北第八高女、臺北第九高女、臺北第十高女、臺北第十一高女、臺北第十二高女、臺北第十三高女、臺北第十四高女、臺北第十五高女、臺北第十六高女、臺北第十七高女、臺北第十八高女、臺北第十九高女、臺北第二十高女、臺北第二十一高女、臺北第二十二高女、臺北第二十三高女、臺北第二十四高女、臺北第二十五高女、臺北第二十六高女、臺北第二十七高女、臺北第二十八高女、臺北第二十九高女、臺北第三十高女、臺北第三十一高女、臺北第三十二高女、臺北第三十三高女、臺北第三十四高女、臺北第三十五高女、臺北第三十六高女、臺北第三十七高女、臺北第三十八高女、臺北第三十九高女、臺北第四十高女、臺北第四十一高女、臺北第四十二高女、臺北第四十三高女、臺北第四十四高女、臺北第四十五高女、臺北第四十六高女、臺北第四十七高女、臺北第四十八高女、臺北第四十九高女、臺北第五十高女、臺北第五十一高女、臺北第五十二高女、臺北第五十三高女、臺北第五十四高女、臺北第五十五高女、臺北第五十六高女、臺北第五十七高女、臺北第五十八高女、臺北第五十九高女、臺北第六十高女、臺北第六十一高女、臺北第六十二高女、臺北第六十三高女、臺北第六十四高女、臺北第六十五高女、臺北第六十六高女、臺北第六十七高女、臺北第六十八高女、臺北第六十九高女、臺北第七十高女、臺北第七十一高女、臺北第七十二高女、臺北第七十三高女、臺北第七十四高女、臺北第七十五高女、臺北第七十六高女、臺北第七十七高女、臺北第七十八高女、臺北第七十九高女、臺北第八十高女、臺北第八十一高女、臺北第八十二高女、臺北第八十三高女、臺北第八十四高女、臺北第八十五高女、臺北第八十六高女、臺北第八十七高女、臺北第八十八高女、臺北第八十九高女、臺北第九十高女、臺北第九十一高女、臺北第九十二高女、臺北第九十三高女、臺北第九十四高女、臺北第九十五高女、臺北第九十六高女、臺北第九十七高女、臺北第九十八高女、臺北第九十九高女、臺北第一百高女、臺北第一百一高女、臺北第一百二高女、臺北第一百三高女、臺北第一百四高女、臺北第一百五高女、臺北第一百六高女、臺北第一百七高女、臺北第一百八高女、臺北第一百九高女、臺北第一百十高女、臺北第一百十一高女、臺北第一百十二高女、臺北第一百十三高女、臺北第一百十四高女、臺北第一百十五高女、臺北第一百十六高女、臺北第一百十七高女、臺北第一百十八高女、臺北第一百十九高女、臺北第一百二十高女、臺北第一百二十一高女、臺北第一百二十二高女、臺北第一百二十三高女、臺北第一百二十四高女、臺北第一百二十五高女、臺北第一百二十六高女、臺北第一百二十七高女、臺北第一百二十八高女、臺北第一百二十九高女、臺北第一百三十高女、臺北第一百三十一高女、臺北第一百三十二高女、臺北第一百三十三高女、臺北第一百三十四高女、臺北第一百三十五高女、臺北第一百三十六高女、臺北第一百三十七高女、臺北第一百三十八高女、臺北第一百三十九高女、臺北第一百四十高女、臺北第一百四十一高女、臺北第一百四十二高女、臺北第一百四十三高女、臺北第一百四十四高女、臺北第一百四十五高女、臺北第一百四十六高女、臺北第一百四十七高女、臺北第一百四十八高女、臺北第一百四十九高女、臺北第一百五十高女、臺北第一百五十一高女、臺北第一百五十二高女、臺北第一百五十三高女、臺北第一百五十四高女、臺北第一百五十五高女、臺北第一百五十六高女、臺北第一百五十七高女、臺北第一百五十八高女、臺北第一百五十九高女、臺北第一百六十高女、臺北第一百六十一高女、臺北第一百六十二高女、臺北第一百六十三高女、臺北第一百六十四高女、臺北第一百六十五高女、臺北第一百六十六高女、臺北第一百六十七高女、臺北第一百六十八高女、臺北第一百六十九高女、臺北第一百七十高女、臺北第一百七十一高女、臺北第一百七十二高女、臺北第一百七十三高女、臺北第一百七十四高女、臺北第一百七十五高女、臺北第一百七十六高女、臺北第一百七十七高女、臺北第一百七十八高女、臺北第一百七十九高女、臺北第一百八十高女、臺北第一百八十一高女、臺北第一百八十二高女、臺北第一百八十三高女、臺北第一百八十四高女、臺北第一百八十五高女、臺北第一百八十六高女、臺北第一百八十七高女、臺北第一百八十八高女、臺北第一百八十九高女、臺北第一百九十高女、臺北第一百九十一高女、臺北第一百九十二高女、臺北第一百九十三高女、臺北第一百九十四高女、臺北第一百九十五高女、臺北第一百九十六高女、臺北第一百九十七高女、臺北第一百九十八高女、臺北第一百九十九高女、臺北第二百高女、臺北第二百一高女、臺北第二百二高女、臺北第二百三高女、臺北第二百四高女、臺北第二百五高女、臺北第二百六高女、臺北第二百七高女、臺北第二百八高女、臺北第二百九高女、臺北第二百十高女、臺北第二百十一高女、臺北第二百十二高女、臺北第二百十三高女、臺北第二百十四高女、臺北第二百十五高女、臺北第二百十六高女、臺北第二百十七高女、臺北第二百十八高女、臺北第二百十九高女、臺北第二百二十高女、臺北第二百二十一高女、臺北第二百二十二高女、臺北第二百二十三高女、臺北第二百二十四高女、臺北第二百二十五高女、臺北第二百二十六高女、臺北第二百二十七高女、臺北第二百二十八高女、臺北第二百二十九高女、臺北第二百三十高女、臺北第二百三十一高女、臺北第二百三十二高女、臺北第二百三十三高女、臺北第二百三十四高女、臺北第二百三十五高女、臺北第二百三十六高女、臺北第二百三十七高女、臺北第二百三十八高女、臺北第二百三十九高女、臺北第二百四十高女、臺北第二百四十一高女、臺北第二百四十二高女、臺北第二百四十三高女、臺北第二百四十四高女、臺北第二百四十五高女、臺北第二百四十六高女、臺北第二百四十七高女、臺北第二百四十八高女、臺北第二百四十九高女、臺北第二百五十高女、臺北第二百五十一高女、臺北第二百五十二高女、臺北第二百五十三高女、臺北第二百五十四高女、臺北第二百五十五高女、臺北第二百五十六高女、臺北第二百五十七高女、臺北第二百五十八高女、臺北第二百五十九高女、臺北第二百六十高女、臺北第二百六十一高女、臺北第二百六十二高女、臺北第二百六十三高女、臺北第二百六十四高女、臺北第二百六十五高女、臺北第二百六十六高女、臺北第二百六十七高女、臺北第二百六十八高女、臺北第二百六十九高女、臺北第二百七十高女、臺北第二百七十一高女、臺北第二百七十二高女、臺北第二百七十三高女、臺北第二百七十四高女、臺北第二百七十五高女、臺北第二百七十六高女、臺北第二百七十七高女、臺北第二百七十八高女、臺北第二百七十九高女、臺北第二百八十高女、臺北第二百八十一高女、臺北第二百八十二高女、臺北第二百八十三高女、臺北第二百八十四高女、臺北第二百八十五高女、臺北第二百八十六高女、臺北第二百八十七高女、臺北第二百八十八高女、臺北第二百八十九高女、臺北第二百九十高女、臺北第二百九十一高女、臺北第二百九十二高女、臺北第二百九十三高女、臺北第二百九十四高女、臺北第二百九十五高女、臺北第二百九十六高女、臺北第二百九十七高女、臺北第二百九十八高女、臺北第二百九十九高女、臺北第三百高女、臺北第三百一高女、臺北第三百二高女、臺北第三百三高女、臺北第三百四高女、臺北第三百五高女、臺北第三百六高女、臺北第三百七高女、臺北第三百八高女、臺北第三百九高女、臺北第三百十高女、臺北第三百十一高女、臺北第三百十二高女、臺北第三百十三高女、臺北第三百十四高女、臺北第三百十五高女、臺北第三百十六高女、臺北第三百十七高女、臺北第三百十八高女、臺北第三百十九高女、臺北第三百二十高女、臺北第三百二十一高女、臺北第三百二十二高女、臺北第三百二十三高女、臺北第三百二十四高女、臺北第三百二十五高女、臺北第三百二十六高女、臺北第三百二十七高女、臺北第三百二十八高女、臺北第三百二十九高女、臺北第三百三十高女、臺北第三百三十一高女、臺北第三百三十二高女、臺北第三百三十三高女、臺北第三百三十四高女、臺北第三百三十五高女、臺北第三百三十六高女、臺北第三百三十七高女、臺北第三百三十八高女、臺北第三百三十九高女、臺北第三百四十高女、臺北第三百四十一高女、臺北第三百四十二高女、臺北第三百四十三高女、臺北第三百四十四高女、臺北第三百四十五高女、臺北第三百四十六高女、臺北第三百四十七高女、臺北第三百四十八高女、臺北第三百四十九高女、臺北第三百五十高女、臺北第三百五十一高女、臺北第三百五十二高女、臺北第三百五十三高女、臺北第三百五十四高女、臺北第三百五十五高女、臺北第三百五十六高女、臺北第三百五十七高女、臺北第三百五十八高女、臺北第三百五十九高女、臺北第三百六十高女、臺北第三百六十一高女、臺北第三百六十二高女、臺北第三百六十三高女、臺北第三百六十四高女、臺北第三百六十五高女、臺北第三百六十六高女、臺北第三百六十七高女、臺北第三百六十八高女、臺北第三百六十九高女、臺北第三百七十高女、臺北第三百七十一高女、臺北第三百七十二高女、臺北第三百七十三高女、臺北第三百七十四高女、臺北第三百七十五高女、臺北第三百七十六高女、臺北第三百七十七高女、臺北第三百七十八高女、臺北第三百七十九高女、臺北第三百八十高女、臺北第三百八十一高女、臺北第三百八十二高女、臺北第三百八十三高女、臺北第三百八十四高女、臺北第三百八十五高女、臺北第三百八十六高女、臺北第三百八十七高女、臺北第三百八十八高女、臺北第三百八十九高女、臺北第三百九十高女、臺北第三百九十一高女、臺北第三百九十二高女、臺北第三百九十三高女、臺北第三百九十四高女、臺北第三百九十五高女、臺北第三百九十六高女、臺北第三百九十七高女、臺北第三百九十八高女、臺北第三百九十九高女、臺北第四百高女、臺北第四百一高女、臺北第四百二高女、臺北第四百三高女、臺北第四百四高女、臺北第四百五高女、臺北第四百六高女、臺北第四百七高女、臺北第四百八高女、臺北第四百九高女、臺北第四百十高女、臺北第四百十一高女、臺北第四百十二高女、臺北第四百十三高女、臺北第四百十四高女、臺北第四百十五高女、臺北第四百十六高女、臺北第四百十七高女、臺北第四百十八高女、臺北第四百十九高女、臺北第四百二十高女、臺北第四百二十一高女、臺北第四百二十二高女、臺北第四百二十三高女、臺北第四百二十四高女、臺北第四百二十五高女、臺北第四百二十六高女、臺北第四百二十七高女、臺北第四百二十八高女、臺北第四百二十九高女、臺北第四百三十高女、臺北第四百三十一高女、臺北第四百三十二高女、臺北第四百三十三高女、臺北第四百三十四高女、臺北第四百三十五高女、臺北第四百三十六高女、臺北第四百三十七高女、臺北第四百三十八高女、臺北第四百三十九高女、臺北第四百四十高女、臺北第四百四十一高女、臺北第四百四十二高女、臺北第四百四十三高女、臺北第四百四十四高女、臺北第四百四十五高女、臺北第四百四十六高女、臺北第四百四十七高女、臺北第四百四十八高女、臺北第四百四十九高女、臺北第四百五十高女、臺北第四百五十一高女、臺北第四百五十二高女、臺北第四百五十三高女、臺北第四百五十四高女、臺北第四百五十五高女、臺北第四百五十六高女、臺北第四百五十七高女、臺北第四百五十八高女、臺北第四百五十九高女、臺北第四百六十高女、臺北第四百六十一高女、臺北第四百六十二高女、臺北第四百六十三高女、臺北第四百六十四高女、臺北第四百六十五高女、臺北第四百六十六高女、臺北第四百六十七高女、臺北第四百六十八高女、臺北第四百六十九高女、臺北第四百七十高女、臺北第四百七十一高女、臺北第四百七十二高女、臺北第四百七十三高女、臺北第四百七十四高女、臺北第四百七十五高女、臺北第四百七十六高女、臺北第四百七十七高女、臺北第四百七十八高女、臺北第四百七十九高女、臺北第四百八十高女、臺北第四百八十一高女、臺北第四百八十二高女、臺北第四百八十三高女、臺北第四百八十四高女、臺北第四百八十五高女、臺北第四百八十六高女、臺北第四百八十七高女、臺北第四百八十八高女、臺北第四百八十九高女、臺北第四百九十高女、臺北第四百九十一高女、臺北第四百九十二高女、臺北第四百九十三高女、臺北第四百九十四高女、臺北第四百九十五高女、臺北第四百九十六高女、臺北第四百九十七高女、臺北第四百九十八高女、臺北第四百九十九高女、臺北第五百高女、臺北第五百一高女、臺北第五百二高女、臺北第五百三高女、臺北第五百四高女、臺北第五百五高女、臺北第五百六高女、臺北第五百七高女、臺北第五百八高女、臺北第五百九高女、臺北第五百十高女、臺北第五百十一高女、臺北第五百十二高女、臺北第五百十三高女、臺北第五百十四高女、臺北第五百十五高女、臺北第五百十六高女、臺北第五百十七高女、臺北第五百十八高女、臺北第五百十九高女、臺北第五百二十高女、臺北第五百二十一高女、臺北第五百二十二高女、臺北第五百二十三高女、臺北第五百二十四高女、臺北第五百二十五高女、臺北第五百二十六高女、臺北第五百二十七高女、臺北第五百二十八高女、臺北第五百二十九高女、臺北第五百三十高女、臺北第五百三十一高女、臺北第五百三十二高女、臺北第五百三十三高女、臺北第五百三十四高女、臺北第五百三十五高女、臺北第五百三十六高女、臺北第五百三十七高女、臺北第五百三十八高女、臺北第五百三十九高女、臺北第五百四十高女、臺北第五百四十一高女、臺北第五百四十二高女、臺北第五百四十三高女、臺北第五百四十四高女、臺北第五百四十五高女、臺北第五百四十六高女、臺北第五百四十七高女、臺北第五百四十八高女、臺北第五百四十九高女、臺北第五百五十高女、臺北第五百五十一高女、臺北第五百五十二高女、臺北第五百五十三高女、臺北第五百五十四高女、臺北第五百五十五高女、臺北第五百五十六高女、臺北第五百五十七高女、臺北第五百五十八高女、臺北第五百五十九高女、臺北第五百六十高女、臺北第五百六十一高女、臺北第五百六十二高女、臺北第五百六十三高女、臺北第五百六十四高女、臺北第五百六十五高女、臺北第五百六十六高女、臺北第五百六十七高女、臺北第五百六十八高女、臺北第五百六十九高女、臺北第五百七十高女、臺北第五百七十一高女、臺北第五百七十二高女、臺北第五百七十三高女、臺北第五百七十四高女、臺北第五百七十五高女、臺北第五百七十六高女、臺北第五百七十七高女、臺北第五百七十八高女、臺北第五百七十九高女、臺北第五百八十高女、臺北第五百八十一高女、臺北第五百八十二高女、臺北第五百八十三高女、臺北第五百八十四高女、臺北第五百八十五高女、臺北第五百八十六高女、臺北第五百八十七高女、臺北第五百八十八高女、臺北第五百八十九高女、臺北第五百九十高女、臺北第五百九十一高女、臺北第五百九十二高女、臺北第五百九十三高女、臺北第五百九十四高女、臺北第五百九十五高女、臺北第五百九十六高女、臺北第五百九十七高女、臺北第五百九十八高女、臺北第五百九十九高女、臺北第六百高女、臺北第六百一高女、臺北第六百二高女、臺北第六百三高女、臺北第六百四高女、臺北第六百五高女、臺北第六百六高女、臺北第六百七高女、臺北第六百八高女、臺北第六百九高女、臺北第六百十高女、臺北第六百十一高女、臺北第六百十二高女、臺北第六百十三高女、臺北第六百十四高女、臺北第六百十五高女、臺北第六百十六高女、臺北第六百十七高女、臺北第六百十八高女、臺北第六百十九高女、臺北第六百二十高女、臺北第六百二十一高女、臺北第六百二十二高女、臺北第六百二十三高女、臺北第六百二十四高女、臺北第六百二十五高女、臺北第六百二十六高女、臺北第六百二十七高女、臺北第六百二十八高女、臺北第六百二十九高女、臺北第六百三十高女、臺北第六百三十一高女、臺北第六百三十二高女、臺北第六百三十三高女、臺北第六百三十四高女、臺北第六百三十五高女、臺北第六百三十六高女、臺北第六百三十七高女、臺北第六百三十八高女、臺北第六百三十九高女、臺北第六百四十高女、臺北第六百四十一高女、臺北第六百四十二高女、臺北第六百四十三高女、臺北第六百四十四高女、臺北第六百四十五高女、臺北第六百四十六高女、臺北第六百四十七高女、臺北第六百四十八高女、臺北第六百四十九高女、臺北第六百五十高女、臺北第六百五十一高女、臺北第六百五十二高女、臺北第六百五十三高女、臺北第六百五十四高女、臺北第六百五十五高女、臺北第六百五十六高女、臺北第六百五十七高女、臺北第六百五十八高女、臺北第六百五十九高女、臺北第六百六十高女、臺北第六百六十一高女、臺北第六百六十二高女、臺北第六百六十三高女、臺北第六百六十四高女、臺北第六百六十五高女、臺北第六百六十六高女、臺北第六百六十七高女、臺北第六百六十八高女、臺北第六百六十九高女、臺北第六百七十高女、臺北第六百七十一高女、臺北第六百七十二高女、臺北第六百七十三高女、臺北第六百七十四高女、臺北第六百七十五高女、臺北第六百七十六高女、臺北第六百七十七高女、臺北第六百七十八高女、臺北第六百七十九高女、臺北第六百八十高女、臺北第六百八十一高女、臺北第六百八十二高女、臺北第六百八十三高女、臺北第六百八十四高女、臺北第六百八十五高女、臺北第六百八十六高女、臺北第六百八十七高女、臺北第六百八十八高女、臺北第六百八十九高女、臺北第六百九十高女、臺北第六百九十一高女、臺北第六百九十二高女、臺北第六百九十三高女、臺北第六百九十四高女、臺北第六百九十五高女、臺北第六百九十六高女、臺北第六百九十七高女、臺北第六百九十八高女、臺北第六百九十九高女、臺北第七百高女、臺北第七百一高女、臺北第七百二高女、臺北第七百三高女、臺北第七百四高女、臺北第七百五高女、臺北第七百六高女、臺北第七百七高女、臺北第七百八高女、臺北第七百九高女、臺北第七百十高女、臺北第七百十一高女、臺北第七百十二高女、臺北第七百十三高女、臺北第七百十四高女、臺北第七百十五高女、臺北第七百十六高女、臺北第七百十七高女、臺北第七百十八高女、臺北第七百十九高女、臺北第七百二十高女、臺北第七百二十一高女、臺北第七百二十二高女、臺北第七百二十三高女、臺北第七百二十四高女、臺北第七百二十五高女、臺北第七百二十六高女、臺北第七百二十七高女、臺北第七百二十八高女、臺北第七百二十九高女、臺北第七百三十高女、臺北第七百三十一高女、臺北第七百三十二高女、臺北第七百三十三高女、臺北第七百三十四高女、臺北第七百三十五高女、臺北第七百三十六高女、臺北第七百三十七高女、臺北第七百三十八高女、臺北第七百三十九高女、臺北第七百四十高女、臺北第七百四十一高女、臺北第七百四十二高女、臺北第七百四十三高女、臺北第七百四十四高女、臺北第七百四十五高女、臺北第七百四十六高女、臺北第七百四十七高女、臺北第七百四十八高女、臺北第七百四十九高女、臺北第七百五十高女、臺北第七百五十一高女、臺北第七百五十二高女、臺北第七百五十三高女、臺北第七百五十四高女、臺北第七百五十五高女、臺北第七百五十六高女、臺北第七百五十七高女、臺北第七百五十八高女、臺北第七百五十九高女、臺北第七百六十高女、臺北第七百六十一高女、臺北第七百六十二高女、臺北第七百六十三高女、臺北第七百六十四高女、臺北第七百六十五高女、臺北第七百六十六高女、臺北第七百六十七高女、臺北第七百六十八高女、臺北第七百六十九高女、臺北第七百七十高女、臺北第七百七十一高女、臺北第七百七十二高女、臺北第七百七十三高女、臺北第七百七十四高女、臺北第七百七十五高女、臺北第七百七十六高女、臺北第七百七十七高女、臺北第七百七十八高女、臺北第七百七十九高女、臺北第七百八十高女、臺北第七百八十一高女、臺北第七百八十二高女、臺北第七百八十三高女、臺北第七百八十四高女、臺北第七百八十五高女、臺北第七百八十六高女、臺北第七百八十七高女、臺北第七百八十八高女、臺北第七百八十九高女、臺北第七百九十高女、臺北第七百九十一高女、臺北第七百九十二高女、臺北第七百九十三高女、臺北第七百九十四高女、臺北第七百九十五高女、臺北第七百九十六高女、臺北第七百九十七高女、臺北第七百九十八高女、臺北第七百九十九高女、臺北第八百高女、臺北第八百一高女、臺北第八百二高女、臺北第八百三高女、臺北第八百四高女、臺北第八百五高女、臺北第八百六高女、臺北第八百七高女、臺北第八百八高女、臺北第八百九高女、臺北第八百十高女、臺北第八百十一高女、臺北第八百十二高女、臺北第八百十三高女、臺北第八百十四高女、臺北第八百十五高女、臺北第八百十六高女、臺北第八百十七高女、臺北第八百十八高女、臺北第八百十九高女、臺北第八百二十高女、臺北第八百二十一高女、臺北第八百二十二高女、臺北第八百二十三高女、臺北第八百二十四高女、臺北第八百二十五高女、臺北第八百二十六高女、臺北第八百二十七高女、臺北第八百二十八高女、臺北第八百二十九高女、臺北第八百三十高女、臺北第八百三十一高女、臺北第八百三十二高女、臺北第八百三十三高女、臺北第八百三十四高女、臺北第八百三十五高女、臺北第八百三十六高女、臺北第八百三十七高女、臺北第八百三十八高女、臺北第八百三十九高女、臺北第八百四十高女、臺北第八百四十一高女、臺北第八百四十二高女、臺北第八百四十三高女、臺北第八百四十四高女、臺北第八百四十五高女、臺北第八百四十六高女、臺北第八百四十七高女、臺北第八百四十八高女、臺北第八百四十九高女、臺北第八百五十高女、臺北第八百五十一高女、臺北第八百五十二高女、臺北第八百五十三高女、臺北第八百五十四高女、臺北第八百五十五高女、臺北第八百五十六高女、臺北第八百五十七高女、臺北第八百五十八高女、臺北第八百五十九高女、臺北第八百六十高女、臺北第八百六十一高女、臺北第八百六十二高女、臺北第八百六十三高女、臺北第八百六十四高女、臺北第八百六十五高女、臺北第八百六十六高女、臺北第八百六十七高女、臺北第八百六十八高女、臺北第八百六十九高女、臺北第八百七十高女、臺北第八百七十一高女、臺北第八百七十二高女、臺北第八百七十三高女、臺北第八百七十四高女、臺北第八百七十五高女、臺北第八百七十六高女、臺北第八百七十七高女、臺北第八百七十八高女、臺北第八百七十九高女、臺北第八百八十高女、臺北第八百八十一高女、臺北第八百八十二高女、臺北第八百八十三高女、臺北第八百八十四高女、臺北第八百八十五高女、臺北第八百八十六高女、臺北第八百八十七高女、臺北第八百八十八高女、臺北第八百八十九高女、臺北第八百九十高女、臺北第八百九十一高女、臺北第八百九十二高女、臺北第八百九十三高女、臺北第八百九十四高女、臺北第八百九十五高女、臺北第八百九十六高女、臺北第八百九十七高女、臺北第八百九十八高女、臺北第八百九十九高女、臺北第九百高女、臺北第九百一高女、臺北第九百二高女、臺北第九百三高女、臺北第九百四高女、臺北第九百五高女、臺北第九百六高女、臺北第九百七高女、臺北第九百八高女、臺北第九百九高女、臺北第九百十高女、臺北第九百十一高女、臺北第九百十二高女、臺北第九百十三高女、臺北第九百十四高女、臺北第九百十五高女、臺北第九百十六高女、臺北第九百十七高女、臺北第九百十八高女、臺北第九百十九高女、臺北第九百二十高女、臺北第九百二十一高女、臺北第九百二十二高女、臺北第九百二十三高女、臺北第九百二十四高女、臺北第九百二十五高女、臺北第九百二十六高女、臺北第九百二十七高女、臺北第九百二十八高女、臺北第九百二十九高女、臺北第九百三十高女、臺北第九百三十一高女、臺北第九百三十二高女、臺北第九百三十三高女、臺北第九百三十四高女、臺北第九百三十五高女、臺北第九百三十六高女、臺北第九百三十七高女、臺北第九百三十八高女、臺北第九百三十九高女、臺北第九百四十高女、臺北第九百四十一高女、臺北第九百四十二高女、臺北第九百四十三高女、臺北第九百四十四高女、臺北第九百四十五高女、臺北第九百四十六高女、臺北第九百四十七高女、臺北第九百四十八高女、臺北第九百四十九高女、臺北第九百五十高女、臺北第九百五十一高女、臺北第九百五十二高女、臺北第九百五十三高女、臺北第九百五十四高女、臺北第九百五十五高女、臺北第九百五十六高女、臺北第九百五十七高女、臺北第九百五十八高女、臺北第九百五十九高女、臺北第九百六十高女、臺北第九百六十一高女、臺北第九百六十二高女、臺北第九百六十三高女、臺北第九百六十四高女、臺北第九百六十五高女、臺北第九百六十六高女、臺北第九百六十七高女、臺北第九百六十八高女、臺北第九百六十九高女、臺北第九百七十高女、臺北第九百七十一高女、臺北第九百七十二高女、臺北第九百七十三高女、臺北第九百七十四高女、臺北第九百七十五高女、臺北第九百七十六高女、臺北第九百七十七高女、臺北第九百七十八高女、臺北第九百七十九高女、臺北第九百八十高女、臺北第九百八十一高女、臺北第九百八十二高女、臺北第九百八十三高女、臺北第九百八十四高女、臺北第九百八十五高女、臺北第九百八十六高女、臺北第九百八十七高女、臺北第九百八十八高女、臺北第九百八十九高女、臺北第九百九十高女、臺北第九百九十一高女、臺北第九百九十二高女、臺北第九百九十三高女、臺北第九百九十四高女、臺北第九百九十五高女、臺北第九百九十六高女、臺北第九百九十七高女、臺北第九百九十八高女、臺北第九百九十九高女、臺北第一千高女、臺北第一千一高女、臺北第一千二高女、臺北第一千三高女、臺北第一千四高女、臺北第一千五高女、臺北第一千六高女、臺北第一千七高女、臺北第一千八高女、臺北第一千九高女、臺北第一千十高女、臺北第一千十一高女、臺北第一千十二高女、臺北第一千十三高女、臺北第一千十四高女、臺北第一千十五高女、臺北第一千十六高女、臺北第一千十七高女、臺北第一千十八高女、臺北第一千十九高女、臺北第一千二十高女、臺北第一千二十一高女、臺北第一千二十二高女、臺北第一千二十三高女、臺北第一千二十四高女、臺北第一千二十五高女、臺北第一千二十六高女、臺北第一千二十七高女、臺北第一千二十八高女、臺北第一千二十九高女、臺北第一千三十高女、臺北第一千三十一高女、臺北第一千三十二高女、臺北第一千三十三高女、臺北第一千三十四高女、臺北第一千三十五高女、臺北第一千三十六高女、臺北第一千三十七高女、臺北第一千三十八高女、臺北第一千三十九高女、臺北第一千四十高女、臺北第一千四十一高女、臺北第一千四十二高女、臺北第一千四十三高女、臺北第一千四十四高女、臺北第一千四十五高女、臺北第一千四十六高女、臺北第一千四十七高女、臺北第一千四十八高女、臺北第一千四十九高女、臺北第一千五十高女、臺北第一千五十一高女、臺北第一千五十二高女、臺北第一千五十三高女、臺北第一千五十四高女、臺北第一千五十五高女、臺北第一千五十六高女、臺北第一千五十七高女、臺北第一千五十八高女、臺北第一千五十九高女、臺北第一千六十高女、臺北第一千六十一高女、臺北第一千六十二高女、臺北第一千六十三高女、臺北第一千六十四高女、臺北第一千六十五高女、臺北第一千六十六高女、臺北第一千六十七高女、臺北第一千六十八高女、臺北第一千六十九高女、臺北第一千七十高女、臺北第一千七十一高女、臺北第一千七十二高女、臺北第一千七十三高女、臺北第一千七十四高女、臺北第一千七十五高女、臺北第一千七十六高女、臺北第一千七十七高女、臺北第一千七十八高女、臺北第一千七十九高女、臺北第一千八十高女、臺北第一千八十一高女、臺北第一千八十二高女、臺北第一千八十三高女、臺北第一千八十四高女、臺北第一千八十五高女、臺北第一千八十六高女、臺北第一千八十七高女、臺北第一千八十八高女、臺北第一千八十九高女、臺北第一千九十高女、臺北第一千九十一高女、臺北第一千九十二高女、臺北第一千九十三高女、臺北第一千九十四高女、臺北第一千九十五高女、臺北第一千九十六高女、臺北第一千九十七高女、臺北第一千九十八高女、臺北第一千九十九高女、臺北第一千百高女、臺北第一千百一高女、臺北第一千百二高女、臺北第一千百三高女、臺北第一千百四高女、臺北第一千百五高女、臺北第一千百六高女、臺北第一千百七高女、臺北第一千百八高女、臺北第一千百九高女、臺北第一千百十高女、臺北第一千百十一高女、臺北第一千百十二高女、臺北第一千百十三高女、臺北第一千百十四高女、臺北第一千百十五高女、臺北第一千百十六高女、臺北第一千百十七高女、臺北第一千百十八高女、臺北第一千百十九高女、臺北第一千百二十高女、臺北第一千百二十一高女、臺北第一千百二十二高女、臺北第一千百二十三高女、臺北第一千百二十四高女、臺北第一千百二十五高女、臺北第一千百二十六高女、臺北第一千百二十七高女、臺北第一千百二十八高女、臺北第一千百二十九高女、臺北第一千百三十高女、臺北第一千百三十一高女、臺北第一千百三十二高女、臺北第一千百三十三高女、臺北第一千百三十四高女、臺北第一千百三十五高女、臺北第一千百三十六高女、臺北第一千百三十七高女、臺北第一千百三十八高女、臺北第一千百三十九高女、臺北第一千百四十高女、臺北第一千百四十一高女、臺北第一千百四十二高女、臺北第一千百四十三高女、臺北第一千百四十四高女、臺北第一千百四十五高女、臺北第一千百四十六高女、臺北第一千百四十七高女、臺北第一千百四十八高女、臺北第一千百四十九高女、臺北第一千百五十高女、臺北第一千百五十一高女、臺北第一千百五十二高女、臺北第一千百五十三高女、臺北第一千百五十四高女、臺北第一千百五十五高女、臺北第一千百五十六高女、臺北第一千百五十七高女、臺北第一千百五十八高女、臺北第一千百五十九高女、臺北第一千百六十高女、臺北第一千百六十一高女、臺北第一千百六十二高女、臺北第一千百六十三高女、臺北第一千百六十四高女、臺北第一千百六十五高女、臺北第一千百六十六高女、臺北第一千百六十七高女、臺北第一千百六十八高女、臺北第一千百六十九高女、臺北第一千百七十高女、臺北第一千百七十一高女、臺北第一千百七十二高女、臺北第一千百七十三高女、臺北第一千百七十四高女、臺北第一千百七十五高女、臺北第一千百七十六高女、臺北第一千百七十七高女、臺北第一千百七十八高女、臺北第一千百七十九高女、臺北第一千百八十高女、臺北第一千百八十一高女、臺北第一千百八十二高女、臺北第一千百八十三高女、臺北第一千百八十四高女、臺北第一千百八十五高女、臺北第一千百八十六高女、臺北第一千百八十七高女、臺北第一千百八十八高女、臺北第一千百八十九高女、臺北第一千百九十高女、臺北第一千百九十一高女、臺北第一千百九十二高女、臺北第一千百九十三高女、臺北第一千百九十四高女、臺北第一千百九十五高女、臺北第一千百九十六高女、臺北第一千百九十七高女、臺北第一千百九十八高女、臺北第一千百九十九高女、臺北第一千二百高女、臺北第一千二百一高女、臺北第一千二百二高女、臺北第一千二百三高女、臺北第一千二百四高女、臺北第一千二百五高女、臺北第一千二百六高女、臺北第一千二百七高女、臺北第一千二百八高女、臺北第一千二百九高女、臺北第一千二百十高女、臺北第一千二百十一高女、臺北第一千二百十二高女、臺北第一千二百十三高女、臺北第一千二百十四高女、臺北第一千二百十五高女、臺北第一千二百十六高女、臺北第一千二百十七高女、臺北第一千二百十八高女、臺北第一千二百十九高女、臺北第一千二百二十高女、臺北第一千二百二十一高女、臺北第一千二百二十二高女、臺北第一千二百二十三高女、臺北第一千二百二十四高女、臺北第一千二百二十五高女、臺北第一千二百二十六高女、臺北第一千二百二十七高女、臺北第一千二百二十八高女、臺北第一千二百二十九高女、臺北第一千二百三十高女、臺北第一千二百三十一高女、臺北第一千二百三十二高女、臺北第一千二百三十三高女、臺北第一千二百三十四高女、臺北第一千二百三十五高女、臺北第一千二百三十六高女、臺北第一千二百三十七高女、臺北第一千二百三十八高女、臺北第一千二百三十九高女、臺北第一千二百四十高女、臺北第一千二百四十一高女、臺北第一千二百四十二高女、臺北第一千二百四十三高女、臺北第一千二百四十四高女、臺北第一千二百四十五高女、臺北第一千二百四十六高女、臺北第一千二百四十七高女、臺北第一千二百四十八高女、臺北第一千二百四十九高女、臺北第一千二百五十高女、臺北第一千二百五十一高女、臺北第一千二百五十二高女、臺北第一千二百五十三高女、臺北第一千二百五十四高女、臺北第一千二百五十五高女、臺北第一千二百五十六高女、臺北第一千二百五十七高女、臺北第一千二百五十八高女、臺北第一千二百五十九高女、臺北第一千二百六十高女、臺北第一千二百六十一高女、臺北第一千二百六十二高女、臺北第一千二百六十三高女、臺北第一千二百六十四高女、臺北第一千二百六十五高女、臺北第一千二百六十六高女、臺北第一千二百六十七高女、臺北第一千二百六十八高女、臺北第一千二百六十九高女、臺北第一千二百七十高女、臺北第一千二百七十一高女、臺北第一千二百七十二高女、臺北第一千二百七十三高女、臺北第一千二百七十四高女、臺北第一千二百七十五高女、臺北第一千二百七十六高女、臺北第一千二百七十七高女、臺北第一千二百七十八高女、臺北第一千二百七十九高女、臺北第一千二百八十高女、臺北第一千二百八十一高女、臺北第一千二百八十二高女、臺北第一千二百八十三高女、臺北第一千二百八十四高女、臺北第一千二百八十五高女、臺北第一千二百八十六高女、臺北第一千二百八十七高女、臺北第一千二百八十八高女、臺北第一千二百八十九高女、臺北第一千二百九十高女、臺北第一千二百九十一高女、臺北第一千二百九十二高女、臺北第一千二百九十三高女、臺北第一千二百九十四高女、臺北第一千二百九十五高女、臺北第一千二百九十六高女、臺北第一千二百九十七高女、臺北第一千二百九十八高女、臺北第一千二百九十九高女、臺北第一千三百高女、臺北第一千三百一高女、臺北第一千三百二高女、臺北第一千三百三高女、臺北第一千三百四高女、臺北第一千三百五高女、臺北第一千三百六高女、臺北第一千三百七高女、臺北第一千三百八高女、臺北第一千三百九高女、臺北第一千三百十高女、臺北第一千三百十一高女、臺北第一千三百十二高女、臺北第一千三百十三高女、臺北第一千三百十四高女、臺北第一千三百十五高女、臺北第一千三百十六高女、臺北第一千三百十七高女、臺北第一千三百十八高女、臺北第一千三百十九高女、臺北第一千三百二十高女、臺北第一千三百二十一高女、臺北第一千三百二十二高女、臺北第一千三百二十三高女、臺北第一千三百二十四高女、臺北第一千三百二十五高女、臺北第一千三百二十六高女、臺